

せんぶたべたよ!



せんぶたべたよ!



あるひ ゆうきくんが いえにかえると、

おかあさんが ベッドで 眠っていました。

「おかあさん、 どうしたの？」

「おかえり。 おかあさん、 おなかが おもたくて つかれちゃった……」

ふとんの なかから、 げんきのない おかあさんの

つかれたこえが きこえます。

おかあさんの おなかには あかちゃんがいます。



「おやつのプリンが、 れいぞうこに はいっているから、 たべてね」

おかあさんは そういうって、 また 瞬くつてしまいました。

ゆうきくんは、プリンを
れいぞうこから だしました。
そして、いすにすわり
「いただきまーす……」と
プリンを ひとくち たべました。





ゆうがたになり、おかあさんから れんらくをもらった おとうさんが、

いつもより はやく かえってきました。

「おなか、すいたよー」

ゆうきくんは おとうさんに いいました。

「おやつのプリン、のこしているじゃないか」

おとうさんは プリンを れいぞうこに しまいました。

「ごはん、まだなの？」

ゆうきくんは プーっとほっぺを ふくらませました。

「なあ、ゆうき。おなかが すいたときに、

ごはんが できるって、すごいことだよな」

「そうだ! ふたりで、みんなが げんきになる ゆうごはんを つくろうか」

おとうさんは、エプロンをつけて はりきっています。

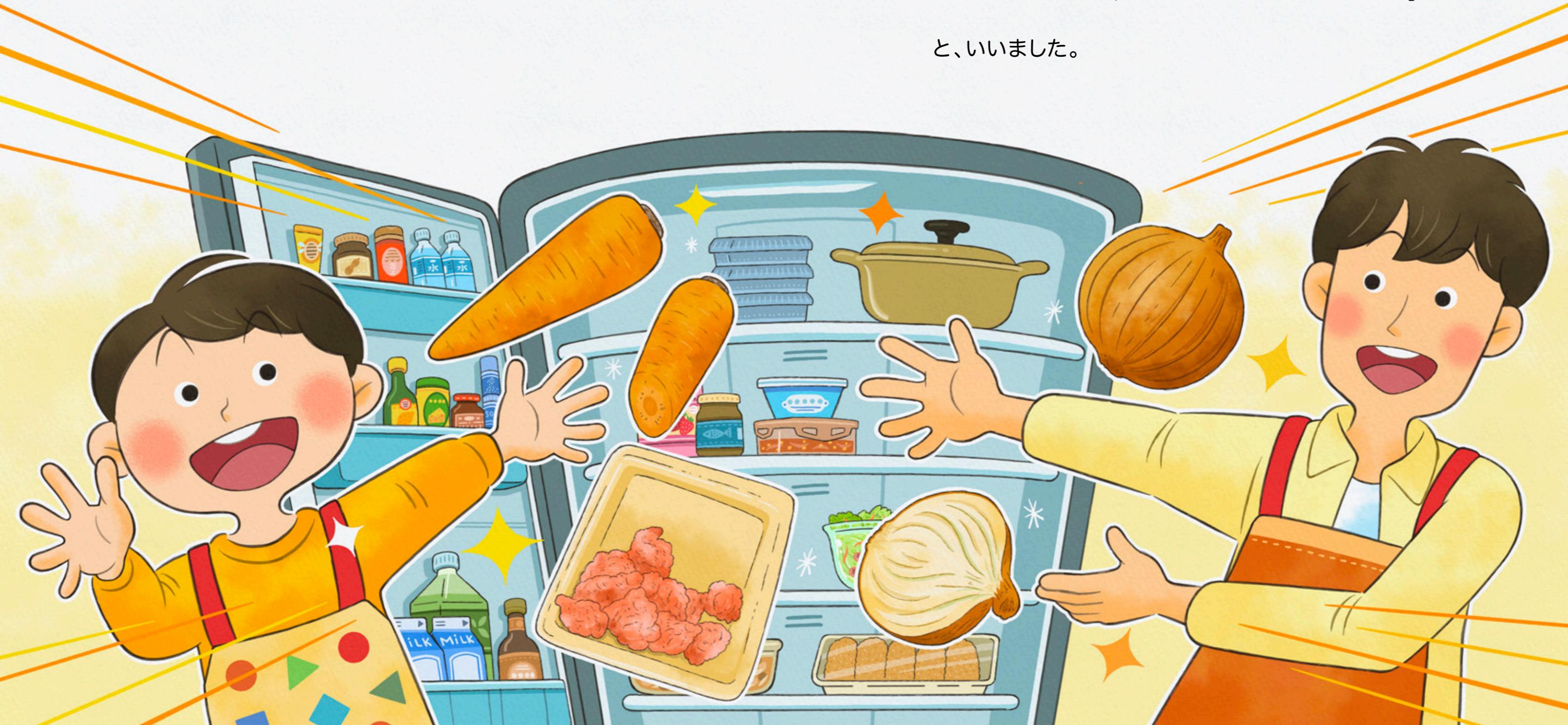
「うん、つくる!」

すねていた ゆうきくんも、えがおになりました。

おとうさんは、れいぞうこを のぞいて

「ここにあるもので、クリームシチューを つくろう!」

と、いいました。



「ぼくも、てつだう！」

ゆうきくんは おとうさんと いっしょに、

うまれてはじめて ほうちょうを にぎりました。

ふたりで たまねぎを きっていきます。

「うまく きれないよ。たまねぎって たべるのも きるのも きらい！

だって、めが いたくなるんだもん……」

ゆうきくんは、ほうちょうを てから はなそうとしました。

「おとうさんと いっしょに もういっかい やってみよう」

おとうさんに はげまされ、ゆうきくんは たまねぎを

さいごまで きることができました。

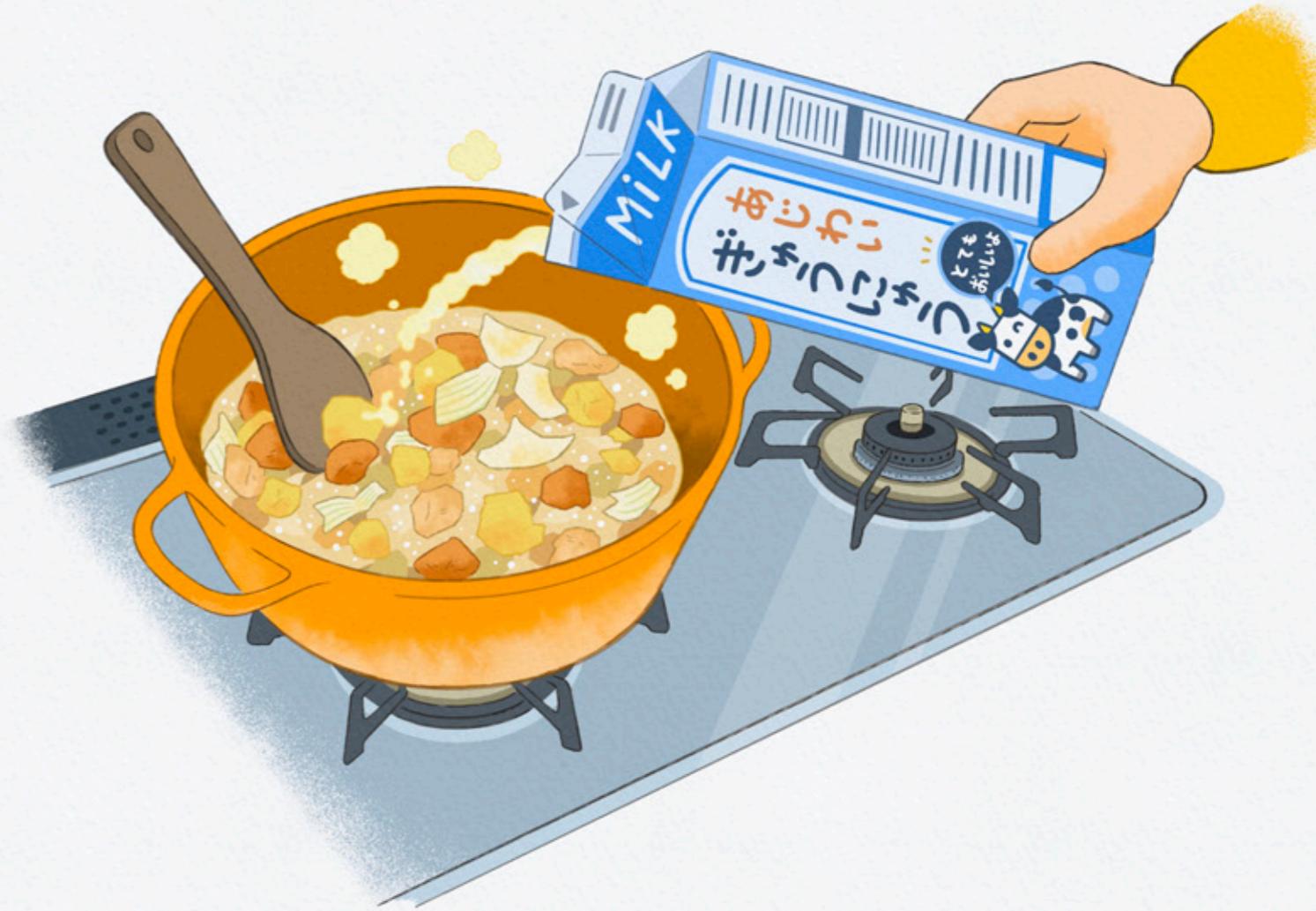


「にんじんは きれいに あらえば

かわも たべられるって、

おかあさん いってたよね」

「このたまねぎも、にんじんも、じゃがいもも、おかあさんが
おてつだいをしている おじいちゃんのはたけで つくっているんだよ」
「これ、ぜんぶ？」ゆうきくんは、めを まんまるにして、ききかえしました。
「そうだよ。おじいちゃんと おばあちゃん、おかあさん。
それから、そこではたらいている たくさんの人たちが、
いっしょに けんめい そだてた やさいなんだよ」



おとうさんは、きっとやさいや おにくを
おなべで いためました。
コトコトと にこんでから、ゆうきくんは おとうさんと
いっしょに ぎゅうにゅうを たっぷりいました。